

深く心に刻まれる、指導をしましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q

1年生「大きさくらべ（2）」では、どのようなことに気をつけて指導したらよいのでしょうか？

A

4年生の「面積」につながる学習です。P126の左上にあるQRコンテンツを開くところから学習を進めましょう。すると、この単元では、「ひろい」が、キーワードになっていることがわかります。どちらが広いかを調べるには、「大きさくらべ（1）」で学習した「ながさくらべ」や「かさくらべ」と同様に、直接比較したり、花壇の中のマスの数で比べたりします。場所取りゲームでは、マスの数でどちらが広いかを比べていきますが、「大きさくらべ（1）」と同様に、任意単位での比較になりますので、学習には系統（つながり）があるという指導をしていきましょう。そのため、単にゲームをして勝ち負けを競うことに終始することのないように工夫を凝らしましょう。

この単元は、1年生の「測定」領域のまとめであり、既習事項を活用して大きさは単位のいくつ分で比べられるという基本事項を学んでいくという、心に刻む学び方を指導する単元になります。

Q

1年生「かえますか？かえませんか？」で、どのように指導すれば、心に刻む指導ができるのでしょうか？

A

この「学びをいかそう」の単元は、すべての学年に設けられています。子供たちは、今回のこの種の問題に違和感を抱くかもしれません。なぜなら、50円をもとに大まかな大きさを見積もる問題だからです。子供たちは、算数は正確に答えを求めなくてはならないと認識しています。本単元では、正確な答えが必要ではなく、買えるか買えないかを見積もることとその理由を求めています。そのため、筋の通った文章で説明させることが重要です。ここでは、課題に対するこのような見方・考え方を指導す



ることになります。

この単元も、P 128は一斉指導で行い、P 129はできる限り自分の力で解かせるようにすると、心に残る指導ができます。

Q

1年生「もうすぐ2年生」の効果的な指導とは、どのような方法でしょうか？

A

これまでに学習してきた内容を、各自で確かめるコーナーです。

いくつかの指導方法を紹介します。子供たちに任せきりの自習体制は避けましょう。初めに、1年間で学んできたものを確認しながら解いていくという目標を持たせましょう。

- ①一問ずつできたら、教師に見せて、○をもらうようにするのが一般的です。
- ②1ページ単位で見せに来させる方法もありますが、理解の不十分な子は飽きてしまいますので、個に応じた配慮が必要です。
- ③模範解答を用意しておき、子供自身が○をつけ、教師に出来栄を報告する方法もあります。その際は、間違えたところをやり直させ、どうして間違えたのかを説明させましょう。
- ④P 131の計算問題は、設問ごとに見せに来させます。間違えている計算があったら、その箇所を教えないで、例えば、「全体の中で2間違えます。どこが違うか探してください。」と言って、再計算させる指導もできます。この指導は、子供にとって厳しい指導ですが、計算力は抜群に向上します。
- ⑤P 132からは、答えとその理由をかかせると、正解率がアップし、学力の向上につながります。
- ⑥P 134からは、授業で指導したとおり、わかっていることや聞かれていることに線を引かせるなどしてから、式と答えを出させましょう。そうすれば、その子がどこでつまづいているかを確認することができます。
- ⑦どうしても解けない問題がある子には、「ここでもう一回学習すればできるようになる」という励ましの言葉を贈り、同様な問題に再挑戦させましょう。そのために、似よりの問題を準備しておくことを勧めます。「何度も教えたよね。宿題でやってきなさい。」とか「残ってやりなさい。」といった消極的な指導は避けてください。深く心に刻む指導により、希望と期待を胸に抱かせ、2年生へと送り出してあげましょう。

「1年のまとめ」は、指導者の工夫次第で、子供たちが楽しく学べて確かな定着につながり、自主学習を計画することができます。ここで紹介した指導方法は一例ですので、先生方のアイデアによって、さらなる効果を上げられるよう期待しています。

